

東京都精神障害者家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/

発行者 眞壁 博美

2015.6.15 第311号

# つくしだより



平成28年6月号

国会請願運動のファイナルステージに参加して

都連副会長 松沢 勝

5月13日は漸く辿り着いた延べ一年に及ぶ永い終わりの始まりだと言うのが実感です。

みんなねっとと史上初の国会請願行動の最後の仕上げで、62万筆の署名の山を前に、全国より162名の会員(内東京都連よりは眞壁会長以下21単会、32名)が参加した作戦会議のはじまりです。

衆参あわせて182名の国会議員に請願を17のグループに分かれて午前10時30分頃から行動開始です。

因みに、今から4年前の2012年6月に「こころの健康基本法」の法制化を求める国会請願署名は72万筆に達していましたが、今回は後半の追い上げが功を奏して62万筆(内都連で最終的に集まった署名数は34,349票)に達したことは全国の家族会の皆様の熱意の賜です。

請願用紙が議員に届けられる手順は次の通りです。請願署名を頂いた署名用紙を最低1000筆の束にしたものを全国7ブロック毎に紹介議員数に合わせて17の請願人グループが手分けして、紹介議員182名の国会

内事務所へ届けます。なお、署名用紙の最初の頁の、請願団体・公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)、請願人代表・関東ブロック東京地区なら紹介議員の4人の議員がいますが、眞壁会長、植松理事、松原理事、松沢理事が自筆署名をしています。

請願書は、議員の紹介により提出しなければなりません。したがって、提出に関する具体的な手続は、議員ないし議員秘書が行います。

これ以降の手続き大凡次の通りです。  
① 請願書の審査…正しい署名かどうかのチェックで、不適正な署名は署名数から除かれます。最近厳しくなっているとのことです。

② 衆参両院の議院運営委員会(議運)で、請願を議論する特別委員会と本会議上程までの日程を決めます。本件は、国土交通委員会でも議論することになります。議運は両院とも定員25名で、現在の委員長は、自民党が占めています。

③ 国土交通委員会での検討…定員は衆院45名、参院25名で各党派の議席数に応じて配分され、議

長は衆院・自民党、参院・民進党、新緑風会が占めています。

国土交通委員会に現在挙げられている本運動に係る請願は、5月13日現在で次の通りです。

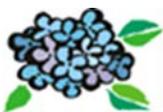
請願件名「精神障害者に対して公共交通機関の運賃割引制度の実施を求めることに関する請願」及び「精神保健福祉手帳所持者に交通運賃減額制度を適用すること等に関する請願」

#### ④ 本会議上程審議

今年の通常国会は、第190回国会(会期平成28年1月4日～6月1日)ですので、会期が延期されなければ6月1日迄にこの請願が認められるかどうか決まります。

請願は、次期国会に継続しませんので、今回通らなければ、次回以降の国会へ同じ趣旨の請願を再提出することになります。

冒頭、「永い終わりの始まり」と言いましたのは、5月13日から6月1日迄の期間は、皆で全力を尽くしたあと天命を待つほかはないと言う気持ちです！



「みんなねっと」総会にはじめての参加  
都連副会長 本田 道子

私が参加している家族会は都内渋谷区にある「渋谷太陽の会」です。

その「渋谷太陽の会」は東京都の連合会である「東京つくし会」にも参加しています。

そして「東京つくし会」は全国組織であるところの「みんなねっと」に参加しています。正式の名前は「公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会」といいます。

そして世界規模の団体は・・・まだ作られてはいない(?) ようです。

その「みんなねっと」の年1回の総会が5月26日に池袋で行われました。北海道から沖縄までそれぞれの代表の方は私より先輩に見えました。それと「みんなねっと」の事務局長の小幡さんがとても頼もしく感じられました。若いというのはいいこと、です。

今年はこの事務局を始めとした「みんなねっと」の組織をがっちり固めたい(強化・拡大)そのためには見直しも必要である。と同時に今まで継続してきていることは引き続きしっかりと発展的に取り組みたい、と今までの「家族によるピアサポート相談研修」のさらなる充実。そして新しく「家族による家族学習会」が提案されました。今までコンボが中心でしたが今年からは「みんなねっと」が取り組みます。

昨年度取り組んだイギリスのメリデンファミリーワークは今年も引き続き実施。「交通運賃の署名」は62万筆以上となり大きな成果となりました。

そして何よりも「熊本」です。みんなねっとはJDFと協力して人員・車両・お金の支援を継続してゆくことの特別決議をしました。まだまだたくさんさんの報告がありますがあとは「みんなねっと」をごらん下さい。

月刊「みんなねっと」を購入してくださることに。それが「みんなねっと」を支え私達家族を支えることにつながります。

杉並家族会主催の講演会に参加して  
都連理事・中住孝典

5月25日(水)「当事者・家族・専門職が力を合わせて精神医療を良くするために、何が必要か！」講師 精神科医 夏刈郁子氏の講演会が高円寺障害者交流館で開催されました。多くの方々がご存じのように、夏刈氏は母が統合失調症を発症したことによる苦悩とその影響から自身もうつ病と摂食障害となり、母と父への憎しみや葛藤を抱えながら精神科医となり、多くの人との出会いを経て、そのことを公表。精神科医による親族や自身の精神障害の公表は前例がなく、自身の心の回復過程を元に、当事者、家族、専門職が力を合わせて精神医療を良

くしようという思いを強くもち、日々の診療活動、講演活動に取り組まれている方です。

「精神科医療の改善のヒントに」と精神科医療に対する当事者・家族の評価を聞く全国規模のアンケート調査も実施。精神科医自身が自信をなくしている、最も難しい病気を扱っている精神科医としての気概をもち、診察室の中だけにこもらず当事者・家族の声にちゃんと耳を傾けることが大切、そして連携を大切にすることが当事者・家族のための精神科医療を育てることにつながるとのこと。当事者も家族も医療者も「精神科医療の運命共同体」という言葉が何度も繰り返され、対等な立場で一緒に精神科医療を良い方向へ変えていきたいという思いが強く伝わってきました。

「回復とは待つ覚悟の中から生まれる」「人が回復するのに締め切りはない」「ちよっとした言葉で心がほぐれ本音を言いやすい関係ができる。それがいい治療につながる」「医師のひと言の有無が当事者・家族の人生も変える」などとても共感できるお話を多く聞くことができました。

それぞれの地域で「共に」を大切にした家族会活動を更に進めていきたいものです。



## 都精民協25周年にあたって

都連会長 眞壁 博美

「東京都精神保健福祉民間団体協議会（都精民協）」は、1992年7月に、東京都地方精神保健福祉審議会の答申の進捗状況を確認していくために、東京つくし会、とせいれん（当事者連合会）、職親会、都精作連（共同作業所の連合会）、共同ホーム連絡会の5団体で発足しました。現在は、授産施設連絡会、てんかん協会、ボランティア団体も加わり、8団体で構成されています。

主な活動として、東京都や各政党への要望活動、都民への普及啓発活動、ニュースの発行、団体間の情報交換、連絡調整、学習会などを定期的にを行っています。また、東京都からの委託事業として、道しるべの編集、家族会の相談事業や家族講演会、都民講演会等をおこなっています。

都精民協は、10年以上前から、東京都社会福祉協議会（東社協）の福祉部児童障害の組織に参加し、「東京都精神保健福祉連絡会」の名称でも活動をしています。この二つの名称を使用しながら活動してきましたが、一つの名称に統一していけるかどうか今年は、加盟団体や東社協、東京都福祉保健局とも協議・検討を進めていこうとしています。

今年度は、都精民協発足25周年記念事業として、都精民協の運営に関わってください

方々を講師にお招きして3回ほど公開学習会を開く予定です。

第1回目は、左記のように決まりました。興味のある方は、ぜひ参加してください。

記

日時…平成28年6月29日18時半～20時

場所…東京都社会福祉協議会12階会議室

（飯田橋セントラルプラザ12階）

講演者…金子鮎子氏

（株式会社ストローク代表取締役）

テーマ…「精神障害者と共に4年ともに働いて人間としての成長を目指す」

## 寄稿

「ベトナムを旅して」

都連理事 松原のり子

今年の3月に6日ほど身内4人でベトナムへ行ってきました。日本を出たことがなかったのですが、体力的にもそろそろ限界であり、当事者の息子がまあまあ落ち着いたので思い切って出かけました。

ハノイ市とホーチミン市（昔のサイゴン）を中心に回りました。ハロン湾へ行く途中の田園風景は、牛で田んぼを耕し、手で早苗を植えるという60年前の日本の田植え風景そのものでした。田植え機も耕運機も見当たらないのですが、コメはベトナムの主食ですから、大事に作られていることを感じました。

ハノイ市やホーチミン市の大都会は、戦後の日本の姿とそっくりで、ほこりと喧騒の中活気にあふれ、露天商が両道端に陣取り、道路はバイクの渦で、そのバイクの代表格が日本の「ホンダ」製で、百聞は一見に如かずのとおり、目を見張りました。

歴史博物館の見学はやはりショックを受けました。ベトナム戦争の枯葉剤による枯れた樹木の荒涼たる写真や、ベトちゃん・ドクちゃんのような標本など、人間がしたこととは思えない陳列品に胸が痛くなりました。一方でベトナム戦争のとき、100kmを超す塹壕（トンネル）の中に学校・役場・産院などを作り、生活し、戦ったという説明に、この国の民の底力を見る思いがしました。

日本とは異なり隣国と地続きのベトナムでは、千年にわたる中国の支配、百年に及ぶフランスの植民地をはね返し、続くアメリカとのベトナム戦争を戦ったのですから、その粘り強さは計り知れないものがあると思えました。映像で見るとは大違い、やはり自分の体全体で感じることは素晴らしいことでした。



## 家族と当事者の暮らしについて思う

私は、家族会活動に関わってきただけから今年で20年になります。ここ、数年感じることは、父親と当事者の関係に変化を感じる状況を耳にすることです。当事者の年齢は20代前半から30代前半と比較的若く、しかも性別が女性です。家族は、父親が50代後半から60代前半で、いずれも社会的地位のある職業についている方です。

一件目の事例では、当事者が、父親の一方的な言動や態度そのものに嫌悪感を持ち、一緒に暮らすことを拒否、主治医にも合わせないようしている。現在は、父親は単身生活、当事者と母親の二人暮らし。とてもうまく暮らしているようです。

二件目は、父親そのものが、病気の原因のような感じで受け止め、父親が家にいることを嫌い、休みの日などは父親は家での居場所がなくなり、一日中外をうろろ、最近では実家に居候状態です。現在、当事者と母親の二人暮らしで、当事者の症状も落ち着き、作業所にも通所するなど前向きな姿勢が見えているとのこと。

父親の皆さん、子供の病気を正面から受け止め、早い段階から病気についての勉強をしませんか。そして認めてあげませんか。

都連副会長 植松和光

## 講演会のお知らせ

☆6/29(水) 精神障がい者と共に44年 ～ともに働いて人間としての成長を目指す～  
講師：(株)ストローク代表取締役 金子 鮎子氏 主催：東京都精神保健福祉民間団体協議会 申込：東京都社会福祉協議会 福祉部 児童・障害担当 ☎03-3268-7174

☆7/2(土) みんなでやろう 家族SST  
講師：高森 信子氏 主催：サンクラブ多摩 ☎042-371-3380

☆7/9(土) 新宿区障害者生活支援センター1年  
講師：新宿区障害者生活支援センター施設長 和賀 未青氏  
主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。



☆賛助会員(敬称略)

大田つばさ会

戸島絹江

ありがとうございます。

5000円  
2000円

## 編集後記

「象のはな子亡くなる」のニュースに接し、あの「かわいそうな象」の「花子」のことが悲しく思い出されます。戦時中、動物たちを毒殺するという残虐な行為がなされましたが、賢い「花子」は毒入りの食事を拒否して餓死してしまいました。

芸をすれば食事を貰えると「花子」は、飼育員のままで弱った体を檻によりかけて芸をし、そのまま亡くなってしまいました。絵本でこの姿を見たときは、戦争さえなければこんなことにはならなかった！人間が殺してしまった！と涙が止まりませんでした。

「はな子」は69才、かわいい姿は、戦後の荒廃した東京に明るさをもたらしてくれました。

二人の人を踏みつぶしたとして殺人象といわれ、鎖につながれてしまった時期もあり、人間不信に陥ったといわれています。殺人などんでもない！酔っ払いが深夜侵入したので、驚いてしまった。また、飼育員が踏まれた時も何らかの原因は人間にあったと思います。

人間不信から献身的な飼育員の寄り添う姿に「はな子」は人間との距離を狭めていったそうです。言葉で気持ちを表すことが出来ない動物たちはどんな思いで私たち人間をみているのでしょうか。動物の気持ちに寄り添うことは、人間同士でも言えます。支え合って生きていく社会です。お互いのこころを大切にしていきたいです。

都連副会長 川崎洋子

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。